

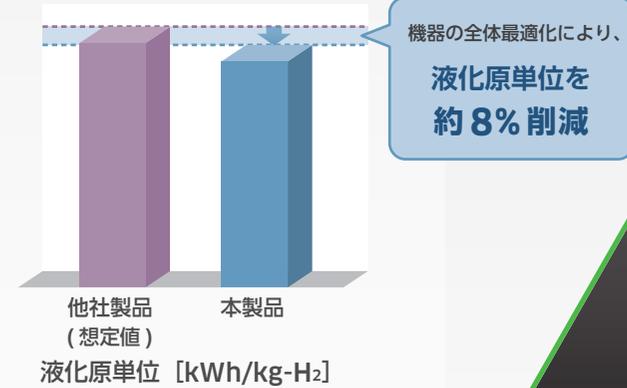
水素液化システム

世界トップクラスの液化原単位※を達成

水素液化システムにおいて、独自に開発した液化プロセスを基に構成機器の最適化を重ね、世界トップクラスの液化原単位を達成しました。

自社開発の膨張タービンは、水素軸受の採用により、水素への不純物混入防止、容易なメンテナンスを実現しています。

※液化原単位 = 水素 1kg を液化するのに必要な電力量



2021
Kawasaki
Ecological Frontiers
S class



製品紹介

水素サプライチェーン構築に必要な水素を液化するシステムです。水素を液化すると体積が 1/800 になり、大量の水素の効率的な輸送を可能とします。1日あたり5トンの液化水素 (FCV1,000 台相当の燃料) の製造が可能です。

特長

- 純国産液化機
- 液化機のキーコンポーネントとなる膨張タービンは作動流体として水素ガスを用いる気体軸受を採用しており、液化プロセスへの不純物の混入がなく、非接触なのでメンテナンスが容易
- 各種機器配置の見直しにより、プロトタイプ機からの重量を低減